

1 学校教育目標

- ・広い視野に立ち、深く考える人になろう。
- ・あたたかい思いやりを持ち、心にうるおいのある人になろう。
- ・進んでものごとを行い、力いっぱい努力する人になろう。
- ・健康なからだをつくり、明るい心を持った人になろう。

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「通いたい・通わせたい・誇れる」学校 (1) 基礎的・基本的な学力の確実な定着と向上を目指す学校 (2) 豊かな心の育成と規範意識の確立を目指す学校 (3) 文武両道を実践し、生徒・保護者・地域から信頼され誇れる学校
○児童・生徒像	○「自らの生き方に自信をもち、社会に貢献できる、本気で取組む」生徒 (1) 毎日の授業と家庭学習にしっかり取組み、自ら向上しようとする生徒 (2) 礼節を重んじ、進んで挨拶することができる生徒 (3) 自他共に大切にでき、自己有用感や自己肯定感をもつことができる生徒
○教師像	○「信頼される」教師 (1) 理論と実践を重んじ、生徒一人一人の能力を伸ばしようとする教師 (2) 職務に真剣に取り組む、生徒からも保護者・地域からも信頼される教師 (3) 常に自己を高めるための研鑽に励む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○ 学校の現状

- (1) 落ち着いた学校生活環境の中で教育活動が行われ、生徒が学校行事や生徒会活動、委員会活動、部活動に熱心に取り組んでいる。
- (2) 教職員が、授業をはじめ学校行事、部活動、地域行事、生徒指導に労を惜しまず取り組んでいる。
- (3) 学習につまずきのある生徒や家庭学習の困難な生徒に対して、学習の場を提供して少人数指導・個別指導を含めた学習支援を行っている。
- (4) 開かれた学校づくり協議会、PTA、地域と連携した活動をとおして、地域とのふれあいや絆を深め、生徒が地域の一員としての自覚と郷土を愛する心情が養われている。

○ 前年度の成果

- (1) コロナ禍における学習保障に関して、学力向上アクションプランの取組工夫と確かな実践をとおして、基礎的・基本的な学力の定着および向上に向けた組織的な取組を実施することができ、4月に実施した区学力調査結果では一昨年度の通過率を5.4ポイント、正答率を7.4ポイント上回った。
- (2) 生徒の学校生活アンケートにおいて「信頼」に関する項目での肯定的平均回答が90%以上であり、生徒と教師の信頼関係が基本的に構築され、教育活動が実施できている。
- (3) コロナ禍の影響で体験授業や部活動体験は実施できなかったが、連携小学校3校とICT機器を活用した足立スタンダードを基にした授業展開で

系統性や継続性を意識した実践を行うことができた。

○ 前年度の課題

- (1) 学習保障に基づく学力の定着と向上を図るため、学力向上アクションプランの更なる充実工夫と確かな実践を図り、教師全員が足立スタンダードを基にした、特に「めあて」「まとめ」「振り返り」を大切にする授業展開を実践するとともに、学習指導要領に即した指導と評価の一体化の充実と、リモートを含めたICT機器を効果的に活用した授業力の向上と家庭学習の充実をめざす。
- (2) 将来の夢や目標をもち、実現に向けて努力するための自己肯定感、自己有用感を高めるとともにキャリア教育の充実を図る。
- (3) 次年度の研究主題を「9年間を見通した教育の推進～主体的、対話的で深い学びを導く授業の工夫～」とし、学習指導要領に伴う指導と評価の一体化を念頭に置き、生徒たちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプランの確かな実践	○	○	○	○	○
2	教師の人権感覚と意識の高揚による生徒指導力の向上	○	○	○	○	○
3	小中連携による義務教育9年間を見通した教育の推進	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプランの確かな実践							
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●				
学力向上を図るためのアクションプラン取組の充実工夫と確かな実践	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末令和4年度区学力調査正答率 70% ・令和5年度区調査通過率 70% 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度区学力調査の通過率は67.9%、正答率は66.6%であった。 ・年度末令和4年度区学力調査学年・教科別正答率 2年国 65.7 数 64.0 英 55.6 1年国 68.9 数 62.2 英 49.0 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末令和4年度区学力調査の全体平均正答率は、60.9%であった。今後も年度末、年度当初で学力の補充を継続し、令和5年度区調査通過率の目標通過率も70%以上をめざす。 		△				
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

新規・継続・改善	家庭学習ノートによる家庭学習習慣の定着	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心	通年	<p>【指導体制】担任あるいは学年所属教員</p> <p>【取り組み内容、ねらい、目的】毎日の家庭学習習慣の定着を図るために3教科を中心とした課題を用意する。子どもたちはその課題に取り組むか、自ら設定した課題を家庭学習で取り組む。また、生徒用、保護者用の「家庭学習の手引き」(5教科)を作成・配布し、具体的な学習のヒントや関わり方のポイントを示し、家庭と連携した取り組みを行う。さらに、「AIドリル」「eライブラリ」を活用した家庭学習の取り組みを進める。</p>	<p>担任を中心とした学年教員がノートや課題提出状況の点検を行い、進捗状況を確認する。</p> <p>保護者が家庭学習の様子を確認する機会を設ける。</p> <p>「AIドリル」「eライブラリ」の学習履歴で学習状況を確認する。</p>	<p>通年で80%以上の家庭学習ノートの提出をめざす。</p> <p>年2回、保護者と家庭学習ノートの様子を確認し、学習の取り組み方について話し合う。</p> <p>年間で個に応じた活用が見られる。</p>	<p>家庭学習ノートの提出率： 第1学年……100% 第2学年……85% 第3学年……85% 全体平均……90%</p> <p>2回の三者面談の中で、家庭学習の取り組み方について保護者と話し合うことができた。(5月初旬に「家庭学習の手引き」を配布)</p>	各学年、入学当初から本取り組みを継続している。発達段階に合わせて、取り組み方法を工夫することで、習慣化がなされていると思われる。	○
継続・改善	金曜日朝テスト 放課後学習	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心	通年	<p>【指導体制】担任あるいは学年所属教員</p> <p>【取り組み内容、ねらい、目的】毎週始めに「範囲表」や課題を配布し、その週の金曜日の朝読書時間にテストを実施する。内容は基礎・基本的な内容とし、基準点に達しなかった生徒は翌週の放課後学習対象生徒となる。放課後学習では金曜日朝テストが合格するまで学習を続ける。また、1学年においては、中1夏季勉強合宿用問題集を活用し、生徒の学習定着状況把握など継続的な取り組みを行う。</p>	放課後学習で、前週の朝テスト内容の課題が解けるようにする。	計算や漢字コンテストの予習という側面もあるので、各種コンテストにおいて合格率90%以上をめざす。	金曜日朝テストは予定回数を100%実施できた。基準点に達しなかった生徒への放課後学習も確実に実施することができた。	事前課題(プレテスト等)、本テスト、放課後学習のサイクルが確立され、学習意欲の向上につながっている。不合格者の固定化が引き続き課題である。	◎

継続・改善	自習教室 質問教室	全学年・ 全生徒 国語・数学・英語・ 社会・理科 を中心に 全教科	考查1 週間前 期間	【指導体制】学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】家庭での学習環境が整わない生徒、あるいは質問のある生徒を対象に自習教室、質問教室を開く。 【使用教材】生徒各自の学習課題	各学年、実施のお知らせと併せて参加希望を把握する。実施日に各学年教員が参加人数を確認する。	参加を希望した生徒の参加率を95%以上にする。	各学年、すべての考查前に自習教室と質問教室を実施できた。各学年、参加を希望した生徒の95%以上の参加があった。	各学年、所属教員が協力し、確実に実施することができた。自主的な参加者を増やすことが課題である。	◎
継続・改善	サタデースクール	自由参加 生徒自らが用意する課題	通年	【指導体制】教員2名+地域の協力者 【取り組み内容、ねらい、目的】毎月1回土曜日の午後に実施する。参加は原則自由であるが、上記2項目の「放課後学習」で十分な成果がみられない場合は指名することもある。	実施のお知らせと併せて参加希望書を回収する。また、当日、参加者名簿を作成し、参加人数を把握する。	毎回の出席者を10名以上にする。	4、5、6、7月は10名を下回っての実施であった。9、10、11、12、1月は10名を超える参加者であった。	今年度は大学と連携し、援助を得ることができた。自主的な参加希望生徒が少なく、固定化している。	△
継続・改善	朝読書	全学年・ 全生徒 国語	通年 登校後の10分間	【指導体制】学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】読書の習慣を身につけさせることで、集中力や語彙力・読解力の向上をめざす。 【使用教材】生徒各自の持参する書籍	読破した書籍名を各自が記録し、年度末にその量に応じて表彰を行う。	各学級において、全校生徒が読書に親しむ時間を保障する。	計画されている時間は、全校生徒が読書に親しむ時間を保障できた。	全校生徒が読書に親しんだ。	◎
新規	AIドリルの活用	全学年・ 全生徒 国語・数学・英語・ 社会・理科	通年 各教科 登校後の10分間 放課後	【指導体制】教科担当教員、学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】各教科の取組に加え、金曜日朝テストや放課後学習にも取り入れ、学力の向上をめざす。 【使用教材】AIドリル	「AIドリル」の学習履歴で学習状況を確認する。 放課後学習で、前週の朝テスト内容の課題が解けるようにする。	各種コンテストにおいて合格率90%以上をめざす。 年度末区学力調査正答率70%をめざす。	各種コンテストにおいては、合格率90%であった。しかし、年度末区学力調査正答率は60.9%であった。	AIドリルを活用することはできたが、効果的な活用ができていないか区学力調査正答率は60.9%であった。必要がある。	△

継続・改善	各種コンテスト	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心に各教科	年間を通じて3回程度	<p>【指導体制】学年所属教員</p> <p>【取り組み内容、ねらい、目的】漢字・計算・英単語（構文含む）等のコンテストを各学年とも各1回以上実施する。教科担当にとらわれず、アクションプラン上記1及び2項目とも関連させて取り組む。内容の精選と、放課後学習を活用した個に応じた指導による全員合格をめざす。</p> <p>【使用教材】教師自作問題</p>	コンテストの結果集約から確認する。	各種コンテストの合格点への合格率が90%以上をめざす。	1月31日現在の状況（ ）内は合格率 第1学年：漢字（90%） 計算（90%） 英単語（90%） 第2学年：漢字（90%） 計算（90%） 第3学年：漢字（90%） 計算（90%） 各学年2～3月にも各コンテストの実施を計画している	全学年、全員合格を目指して予備テストの実施などの工夫の成果が出ている。コンテストは全学年2回以上実施している。	○
新規・継続・改善	教員の授業力向上	全教科・全教員	通年	<p>【取り組み内容、ねらい、目的】</p> <p>学習指導要領に即した指導と評価の一体化の充実を図るための研修を前期・後期の2回実施する。</p> <p>足立スタンダードを基に、「めあて」「まとめ」「振り返り」をふまえた授業展開の実践や成果発表授業及び校内研修などを通じて教員の授業力向上を図る。</p> <p>リモートを含めタブレットや大型ディスプレイ等のICT機器を教員全員が効果的に活用し、授業力の向上をめざす。また、「AIドリル」「e-ライブラリ」の活用を朝学習や放課後学習、家庭学習に取り入れる。</p>	研究授業や授業観察 各種調査結果 生徒の授業評価	学校評価アンケートで『わかりやすい』という肯定的な意見が90%以上をめざす。各種調査結果で前年度を上回る結果を出す。	足立スタンダードを基にした授業展開の実践やICT機器を活用した授業、校内研修会による授業力向上に努めることができた。年度末生徒アンケートでは「わかりやすい」という意見が全体で89.7%であった。	ICTの活用に力を入れた。足立スタンダードを意識した授業展開及びICTを活用した日々の授業実践は、引き続き意識を継続していく。	○
継続・改善	少人数授業	数学の授業	通年	<p>【指導体制】教科担当教師</p> <p>【取り組み内容、ねらい、目的】個に応じた指導で、基礎的な内容の習得をめざす。</p>	各種調査結果、生徒の授業評価アンケートから確認する。	生徒アンケートにおいて、「わかりやすい」という肯定的な意見を85%以上にする。	年度末生徒アンケートでは「わかりやすい」という意見が全体で85.5%であった。	「わかりやすい」という肯定的な意見をさらに高める。	○

継続・改善	年間指導計画の中に「前年度復習期間」と「学力確認期間」を設ける。	全学年・全生徒国語・数学・英語を中心に各教科	年度当初(全学年)、年度末(2月上旬から中旬)	【指導体制】教科担当教師【取り組み内容、ねらい、目的】各学年とも国語・数学・英語は年度当初の指導計画の中に「復習時間」をもうけ、当該学年指導が円滑に開始できるようにする。区調査の自校採点によって、早期に学習の定着状況を把握、分析、対策を立てる。また、年度末(2月上旬から中旬)に1, 2学年を対象に「学力確認期間」を設け、学力の到達度を確認する。	授業観察 模擬テストを実施し、結果集約から確認する。	区調査を中心に、各種調査結果で前年度の成績、年度当初の成績を上回る。	教員による区調査の自校採点によって、早期に学習の定着状況を把握、分析、対策を立てることができた。学力確認は、2月上旬を予定している。	全教科、全学年、全国平均は上回った。区平均は下回っている学年、教科がある。成績下位層へのさらなる支援と上位層の力を伸ばすことが必要である。	○
-------	----------------------------------	------------------------	-------------------------	---	-------------------------------	------------------------------------	--	---	---

重点的な取組事項－2	教師の人権感覚と意識の高揚による生徒指導力の向上
-------------------	--------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
確かな人権感覚に基づく生徒と教師との信頼関係を基盤にした指導とキャリア教育の充実	学校評価アンケートから「信頼度」を示す項目で肯定的回答平均が90%	生徒・保護者・開かれた学校づくり協議会委員の信頼度に関連する項目での肯定的回答平均が91.5%であった。	通いたい、通わせたい、誇れる学校を今後めめざす。	◎

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権尊重の視点で生徒理解に基づく生徒指導と教育相談の充実	学校評価アンケートにおいて「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」の肯定的回答が85%	・生徒の心に寄り添う指導を基盤として、hyper-QU 調査を活用した個々の生徒の学校生活における意欲や満足感、学級集団の状態を把握し、生徒指導や教育相談に活かす。	「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」の肯定的回答が90.3%であった。	生徒に寄り添い、大切にしている指導をとおして個々の生徒の意欲や満足感をもたらす学校をめめざす。	◎

チェンジ&チャレンジの姿勢で活動する生徒の育成とキャリア教育の充実	学校評価アンケートにおいて「積極的な活動」や「将来について考えている」に関連する項目の肯定的回答平均80%	・生徒会・委員会活動や学校・学年行事、部活動の積極的な参加と活動の充実をとおして自己有用感、自己肯定感を高め、将来への夢や希望に向けて努力する姿勢を育成する。	「積極的な活動」に関連する項目の肯定的回答平均が95.3%で、「将来について考えている」項目の肯定的回答が74.0%であった。	自己有用感、自己肯定感を高める取り組みはできているが、将来に向けて目的意識をもち活動するキャリア教育の充実をめざす。	○
礼儀と規律ある生活ができる生徒の育成	学校評価アンケートにおいて「礼儀や規律ある生活」に関連する項目の肯定的回答平均が90%	・生徒会や委員会活動の主体的な活動をとおして、生徒の意識を高める。	「礼儀や規律ある生活」に関連する項目の肯定的回答平均は92.0%であった。	生徒の主体的な自治的活動をとおして落ち着いた安心できる学校づくりをめざす。	◎

重点的な取組事項－3		小中連携による義務教育9年間を見通した教育の推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
学習指導要領に即した指導と評価の一体化を踏まえ、小中学校における学習内容の系統性や指導方法の継続性を考慮した足立スタンダードに基づく授業展開を図るとともにICT機器を効果的に活用した授業力向上を図る	学校評価アンケートにおいて授業に関する項目で「わかりやすい」という肯定的回答平均が90%	年度末生徒アンケートでは「わかりやすい」という肯定的回答平均は、89.7%であった。	足立スタンダードに基づく授業展開に加え、ICT機器の効果的な活用に向けて授業展開を充実させることができた。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習指導要領に即した指導と評価の一体化を踏まえ、足立スタンダードを基にICT機器を効果的に活用した授業実践	学校評価アンケートにおける「めあて」「学び合い」「まとめ」「振り返り」とICT機器活用に関する項目で肯定的回答80%	・指導と評価の一体化を踏まえ足立スタンダードに基づく授業展開を図るとともにICT機器を効果的に活用した授業を実施する。	学校評価アンケートにおける「めあて」「まとめ」「振り返り」とICT機器活用に関する項目で肯定的回答は、89.7%であった。	「めあて」「まとめ」「振り返り」を意識した授業展開に加え、ICT機器を効果的に活用した授業展開の充実を図ることができた。	◎
9年間の連続性を踏まえた指導内容の系統性と指導方法の継続性のある授業実践	小中連携における教科分科会・研究授業、授業体験において足立スタンダードに基づく授業の実施	教科分科会における指導案検討と研究授業、6年生児童を対象とした体験授業において足立スタンダードを基にした授業展開を実施する。	研究授業や6年生児童を対象とした体験授業において、ICT機器を活用し、足立スタンダードを基にした授業展開で実施した。	系統性や継続性を意識して、授業展開を工夫することができた。	○

中1ギャップの未然防止	6年生児童の中学校授業体験と部活動体験の実施	連携小学校3校の6年生児童を対象とした中学校授業体験と部活動体験を実施する。	連携小学校3校の6年生児童を対象にした中学校授業体験・部活動体験を実施した。	児童の取組の様子から、中1ギャップの未然防止の一つにはなったと実感できた。	○
-------------	------------------------	--	--	---------------------------------------	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプランの確かな実践について

【成果】

- ・学力向上アクションプランの確かな実践をとおして、基礎的・基本的な学力の定着および向上に向けた組織的な取組は継続することができている。4月に実施した区学力調査結果では、区平均より通過率が1.9ポイント、正答率は0.8ポイント上回った。

【課題】

- ・令和4年度区学力調査の正答率は66.6%、通過率は67.9%であった。以下が、学習の定着状況の課題であった。
 - 国語 1学年：漢字の読み書きの正答率が全国と区の平均をやや下回っている。説明的な文章の正答率においてA層とD層の差が56.8%である。
 - 2学年：漢字の書きの正答率が全国と区をやや下回っている。文学的な文章の正答率においてA層とD層の差が62.2%である。
 - 数学 1学年：比の正答率が全国をやや下回っている。データの活用の正答率においてA層とD層の差が74.0%である。
 - 2学年：平面図形、円・球、空間図形、データの活用の正答率が全国と区を下回っている。
 - 英語 1学年：身近な内容の聞き取り、単語の読み取りの正答率が全国と区を下回っている。
 - 2学年：英文や対話に応じた英文記述の正答率が全国と区を下回っている。活用の正答率においてA層とD層の差が85.5%である。
- ・年度末令和4年度区学力調査により、上記の課題の変容と新たな課題を把握する。

【対策】

- ・金曜朝テストと放課後学習、各種コンテストの実施を計画的に継続するとともに、系統性・継続性をふまえた内容の充実を図る。
- ・学習指導要領に即した指導と評価の一体化の充実を図るとともに、ICT機器を効果的に活用した授業力の向上と家庭学習の充実を図る。

重点的な取組事項－2 教師の人権感覚と意識の高揚による生徒指導力の向上について

【成果】

- ・生徒への学校生活アンケートにおける「信頼」に関する項目での肯定的回答平均は92.8%であり、「学校生活は楽しい」が95.3%、「入学して良かったと思う」が94.7%、「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」が90.3%であった。今後も生徒に寄り添い、大切にしている指導をとおして個々の生徒の意欲や満足感をもちたす学校をめざしたい。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

- ・「積極的な活動」に関連する項目の肯定的回答平均は95.3%で、自己肯定感、自己肯有用感を高める取り組みはできているが、区学力調査の意識調査における「大人になったときの夢や目標をもっている」の肯定的回答平均が69.7%（昨年度比-3.9ポイント）、学校生活アンケートでの「進学や就職などについて、自分の将来について考えている」では74.0%（昨年度比-2.0ポイント）であり、将来への夢や希望に向けて努力する姿勢を育成するキャリア教育の更なる充実を図っていく必要がある。

重点的な取組事項－3 小中連携による義務教育9年間を見通した教育の推進について

【成果】

・昨年度は中止となった連携小学校3校の6年生児童を対象にした中学校授業体験・部活動体験を実施することができた。連携各校における研究授業では、昨年度以上にICT機器を活用した授業展開に取り組むことで、系統性や継続性を意識した実践を行うことができた。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

・次年度の研究主題を「(検討中)9年間を見通した教育の推進～見通しをもって主体的に学ぶ、児童・生徒の育成～」とし、学習指導要領に伴う指導と評価の一体化を念頭に置き、生徒たちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育んでいく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

数年にわたるコロナ禍において、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら生徒の学びを止めない教育活動をする方針の下に、合唱コンクールを4年ぶりにコロナ禍以前とは異なる発表、開催方法で実施するなど、昨年度より生徒の良き思い出や成長が実感できる教育活動を実施することができました。

各ご家庭においても未だ続くコロナ禍で、感染症防止・予防対策における健康管理や食事の支度、生活面や家庭学習の見守りなど、大変なご苦労とご心配があることと存じますが、こうした状況下における本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして誠に有り難く感謝申し上げます。

コロナ禍の収束により元の日常に戻ることを願うばかりですが、これまでの経験をこれからの人生の糧にし、前向きに「ピンチをチャンス」として捉えて困難を乗り越え、「チェンジ&チャレンジ」の姿勢で、たくましく歩いていく生徒一人一人であって欲しいと強く望んでいます。

開かれた学校づくり協議会の皆様やPTA・おやじも会の皆様には、日々の本校教育活動にご理解とご協力、そして多大なるご尽力をいただき、また、地域の皆様には、生徒たちの健全育成のために見守りやお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。今後とも本校の充実した教育活動と生徒たちの健全育成のために、変わらぬご理解とご協力、そしてご支援や応援を何卒よろしくお願いいたします。

(3) その他(学校教育活動全般について)

第十一中学校は、これからの社会が変化の激しい先行き不透明な厳しい時代であっても、これからも「通いたい・通わせたい・誇れる」学校をめざした学校教育をチーム十一中で推進していきます。文武両道を実践する学校として、生徒たちに「チェンジ&チャレンジ」の姿勢をもたせ、自らの生き方に自信をもち社会に貢献できる本気で取り組む生徒に鍛え育ててまいります。

学校の教育活動の充実、学校と家庭と地域がひとつになり、連携し合ってはじめて可能になります。中でも、学校と家庭の両輪がしっかりと連携してこそ、子どもの個性や可能性をのばせる教育ができるものと考えております。これからも学校、家庭、地域それぞれが「育てるべきこと」「教えるべきこと」「対応すべきこと」の役割を果たす中で、連携し合って効果的で充実した教育活動を実践していきたいと考えております。

各ご家庭においては、学校が生徒の学力向上をめざし基礎・基本の定着・向上を図る取組みをしていることをご理解いただき、家庭学習の習慣と基本的な生活習慣を身に付けさせるためのご協力をお願いいたします。

教職員は、学習指導要領に即した指導と評価の一体化を念頭に、小中連携による9年間を見通した教育を推進し、授業力、指導力の向上に日々努力をしていきます。また、教育相談を充実させ、生徒の心情を理解し、認め、励まし、共に歩む姿勢で信頼関係を高めてまいります。今後も第十一中学校の教育活動の充実のため、保護者、地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。